

Blackboard@Tamagawa 活用事例

01

文学部比較文化学科准教授：松本 博文先生

文学部の学生と教員を縦にも横にもつなぐ上での活用

文学部では平成20年度より「文学部コミュニティ」という活動を展開しています。昨今大学生に対して「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」といった「社会人基礎力」が求められていますが、これを授業の中だけで身につけるのは容易ではありません。そこで、言わば「文学部の課外活動」として、そうした力を養成する場をさらに提供するのが文学部コミュニティです。

今回は、教員の中でも特に中心にかかわる教員アドバイザーの一人として活動している筆者が、文学部コミュニティにおける大規模でのBlackboard@Tamagawa（以下Bb）の運用についてご紹介します。



グループの規模と活動概要

- ◆グループ名：文学部コミュニティ
- ◆参加者：文学部・文学研究科の全学生・全専任教員・チューター（約1,000名）
- ◆活動概要：談話会、特別講演会、エッセイ・コンテスト、スポーツ大会、雑誌制作、SIG等多岐に渡る活動を、学生と教員が協力しながら企画・運営しています。その活動を支援すべく、情報の共有とメンバー間の連絡を主な目的にBbを活用しています。

Bbの基本構成と主な活用法

Bbには、参加者として学生・教員を問わず文学部・文学研究科の全員が登録されています。管理者は、代表の文学部長にアシスタントの担当教員3名を加えた計4名です。コースメニューでは自由に変更できる機能を使い、「アナウンス」「掲示ポスター」「イベント情報」「SIG関連情報」「一般向け情報」「スタッフ向け情報」「連絡用フォーラム」を設定しています。主な

活用法としては、以下の3点が挙げられます。

①イベント情報の伝達

談話会等の様々なイベントにおいて、最も難しいものの一つが広報です。通常の掲示板も利用しますが、他の掲示物に紛れ、必ずしも十分に情報が伝わらないという問題があります。Bbのアナウンス機能では、ログイン後の「My Page」画面の右上に最新の情報が提示されるので、より参加者の目にとまりやすく、情報を伝えやすくなります。また、「掲示ポスター」「イベント情報」でも掲示と同じポスターや情報を載せることで、時間・場所を選ばずにより広く情報を提供できます。

②学生スタッフへの連絡

学生メンバーの中でも、学生スタッフは中核として企画・運営にかかわります。その学生スタッフと教員アドバイザーは不定期にミーティングを行いますが、時間割の関係上、全メンバーが集まるのは難しいのが現状です。そこで、「ス

「トップ向け情報」でミーティングの結果等を掲示することで、参加できなかったスタッフにも情報を伝達することができます。また、必要に応じてeメール機能を使って個別に連絡をとることもできます。

③ SIG の支援

SIGはSpecial Interest Groupの略で、共通の興味・目的を持った有志の学生が集まって自主的な学習・研究グループを作り、継続的に勉強会を開くことのできる制度です。その活動支援の一環として、Bbではアナウンス機能を通して連絡を掲示したり、「SIG 関連情報」において設立関連情報を提供したりしています。中でも最も有用なのがディスカッションボード機能を使った「連絡用フォーラム」です。各SIGの運営形態にもよりますが、SIGはこの機能を活用してメンバー間の連絡や資料の配付を行っています。



図 1. 文学部コミュニティ SIG

アナウンス機能やコンテンツ領域である「SIG 関連情報」は便利な機能である一方、いずれも管理者でなければ情報を加えたり削除したりできません。そのため、SIGのような活動では、こうした機能を活用する際に必ず管理者の教員を通さざるを得ず、手続きが煩雑になってしまいます。しかしながら、「連絡用フォーラム」では、設定により学生からの投稿や、資料の添

付も可能になります。そのため、実質的にはそのSIGのホームページのような形で、メンバー間での情報や資料のやり取りに活用されています。

Bb 利用上の問題点

Bbを活用する上で最も重要なのは参加者がアクセスすることですが、学生からの声の中に興味深い意見がありました。それは、Bbで文学部コミュニティのリンクが見つかりづらいのでアクセスしないというものでした。学生がBbを利用する一番の目的は授業との関係ですが、各授業のページにアクセスする際、その学生はログイン後の「My Page」画面の右側にある参加コースのリンクから入るというのです。そうした形でBbを利用する場合、文学部コミュニティが含まれるMyグループのリンクはその下に続くため、画面をスクロールしないとリンクが出てきません。それで「見つかりづらい」ということになるようです。このことから、学生が確実にアクセスする「My Page」の中でも右上の部分に確実に情報のリンクを提示できるアナウンス機能をより有効に活用する必要があるということが分かりました。

また、そのような事情も考慮し、コースメニューの構成自体も再検討が必要な状況にあります。文学部コミュニティでは創設以来Bbを活用していますが、コースメニューは必要に応じて累積的に増えてきました。しかし、3年目を終えた今、利用頻度の低いセクションを削るとともに、利用頻度の高い「アナウンス」や「連絡用フォーラム」の利用を拡充させるといったことが必要であると思われます。

今後のBbの展開

現時点では、Bbの最も基本的な機能しか活用していません。例えば、これまでは情報の発信が中心ということもあり、情報収集のためのアンケート機能は使ったことがありません。そうした可能性も含めて、大規模のグループという特性を踏まえながら、よりよい形で活動を支援できるよう、管理者もサポートを受けながらBbを活用していきたいと考えています。

e-Education ガイドについて

◆ e-Education ガイド発行のご案内

4月に新入生に配布しているIT活用ガイドが、『e-Education ガイド』に名称変更しました。

e-Education ガイドは、学生要覧として（学生生活ガイド・履修ガイド・教職課程受講ガイド・課外活動ガイドとともに）バインダーで綴じてセット配布されています。各ガイドは、A4判で同じ大きさ・デザインに統一されていますが、帯の色で見分けが付き、e-Education ガイドはオレンジ色の帯の冊子です。デザインやレイアウトは、学生アンケートの声に応じて、本文の左側欄外に、「用語解説」や「参照ページの案内」（関連情報が記載されているページ）をおきました。多色刷りを用いて、何がどこに記載されているかをわかりやすく示すことに重点をおいて再編をいたしました。

バインダーの中の赤い帯の冊子には、全冊子に掲載されている項目を一覧できる「総目次」やよくある質問集「FAQ」、キーワード検索のできる「総合索引」、本ガイドの使い方などが紹介されています。

また、「学生要覧 Web サイト」では冊子と同様の内容を見ることができますので紛失した場合などに利用することができます。



図2. 学生要覧

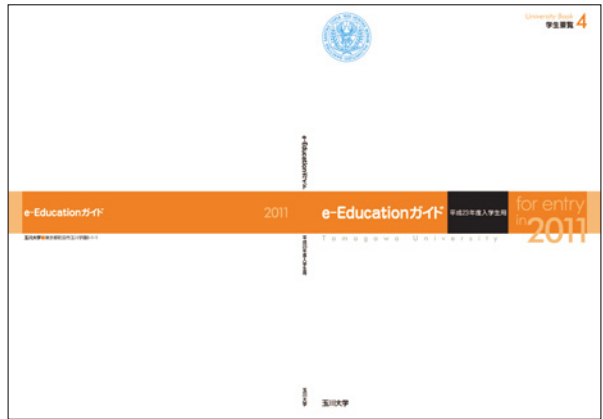


図3. e-Education ガイド表紙

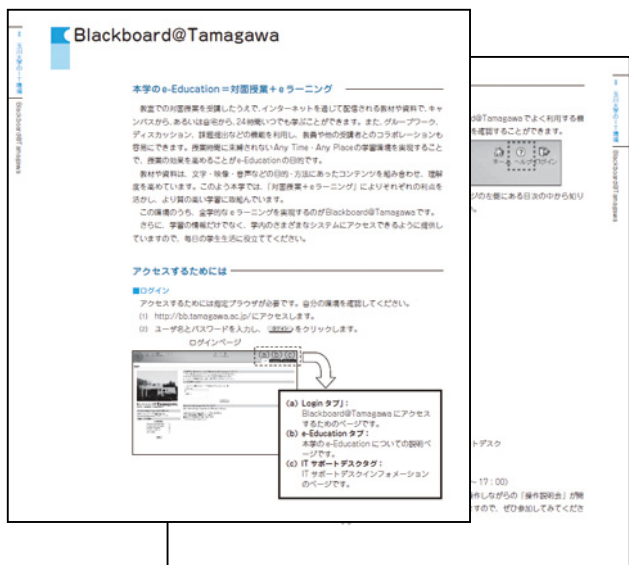


図4. 学生要覧 Web サイト

Blackboard@Tamagawa

2010年度 授業のコース統計

2010年度 Blackboard@Tamagawa の活用率とコース統計結果をご報告します。2010年度春学期、秋学期を通しての Bb コース活用率は 48.3%、専任教員の活用率は 72.8%、学生の活用率は 98.2% となりました。

2010年度で活用率が高かったのは経営学部、リベラルアーツ学部、文学部です。

春、秋学期合わせて 2,000 以上の授業で利用され、専任教員と非常勤教員を合わせた活用率は 52.6% となりました。

また、授業以外でも 150 以上のグループが作成され、本号の事例をはじめとし、コスモス祭実行委員会、就職指導等で活用されました。

Blackboard@Tamagawa 活用推移 (大学全体)

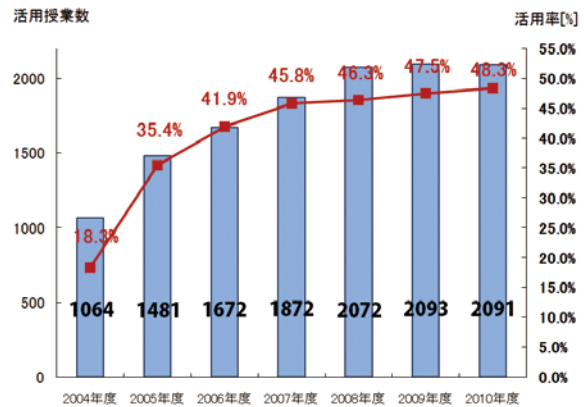


図 5. 授業における Blackboard @ Tamagawa 活用状況

①授業数：正式に登録され、開講された授業コード数

②活用数：①の授業のうち、Bb を活用した授業コード数

③活用率：授業のうち、Bb を活用している割合 (= ② ÷ ① × 100)

表 .Blackboard@Tamagawa 活用推移 (年度単位)

| 学部 | 2004 | | 2005 | | 2006 | | 2007 | | 2008 | | 2009 | | 2010 | |
|-----------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|
| | コース数 | 活用率 | コース数 | 活用率 | コース数 | 活用率 | コース数 | 活用率 | コース数 | 活用率 | コース数 | 活用率 | コース数 | 活用率 |
| 文学部 | 224 | 24.1% | 381 | 42.6% | 423 | 51.5% | 434 | 57.5% | 427 | 61.8% | 319 | 64.2% | 265 | 64.8% |
| 農学部 | 20 | 5.0% | 75 | 19.0% | 138 | 30.4% | 143 | 40.3% | 135 | 38.3% | 155 | 48.3% | 169 | 49.5% |
| 工学部 | 48 | 8.4% | 155 | 27.7% | 258 | 41.0% | 255 | 46.9% | 191 | 39.9% | 207 | 39.8% | 203 | 40.8% |
| 経営学部 | 481 | 93.0% | 449 | 99.6% | 425 | 97.6% | 299 | 69.9% | 378 | 72.6% | 377 | 77.3% | 385 | 76.3% |
| 教育学部 | 59 | 11.1% | 93 | 17.7% | 111 | 21.0% | 160 | 32.5% | 169 | 30.2% | 195 | 30.6% | 226 | 34.1% |
| 芸術学部 | 35 | 3.4% | 79 | 18.1% | 102 | 24.1% | 157 | 27.9% | 153 | 29.9% | 174 | 34.7% | 187 | 31.5% |
| リベラルアーツ学部 | | | | | | | 87 | 79.8% | 156 | 74.9% | 222 | 71.6% | 242 | 71.1% |
| コア | 40 | 11.0% | 91 | 25.6% | 130 | 33.0% | 187 | 49.3% | 185 | 48.7% | 170 | 45.5% | 183 | 50.3% |
| 教職関連科目 | 0 | 0.0% | 7 | 20.0% | 11 | 22.4% | 14 | 35.1% | 14 | 40.0% | 13 | 31.7% | 15 | 36.6% |
| 総計 | 907 | 18.3% | 1330 | 35.4% | 1598 | 41.9% | 1736 | 45.8% | 1808 | 46.3% | 1832 | 47.5% | 1875 | 48.3% |

(注) ①コース数：教室での対面授業を 1 コースとして、授業コード区分別 (各学部、コア / 教職共通科目) に集計。

②受講者のべ数、教員実数：利用者を所属学部別に集計。

③活用率 (%)：各学部開講授業コードを元に集計。(図. 注釈参照)

④コース数と活用率の違い：コース数は、Bb 利用対面授業数を把握する目的で集計。

活用率は、全授業中の活用の割合を把握するため、授業コードを元に集計。

編集後記

今回は、学部生、大学院生、教員という大人数での情報共有を目的とした Bb グループの活用事例をご紹介頂きました。Bb グループは、学部学科、クラス、教職・就職指導の他にも他学部の学生グループなど様々な用途でご利用頂けます。運用方法についてご不明な点がございましたらご案内いたしますので、お問い合わせ下さい。

春学期も Blackboard@Tamagawa をぜひご利用ください。

e-Education NewsLetter 2011 Vol.1

2011年4月発行

玉川大学

e エデュケーションセンター メディア教育推進室

東京都町田市玉川学園 6-1-1

Tel : 042-739-8820

Fax : 042-739-8825

e メール : bbhelp@tamagawa.ac.jp